

経営基本方針

物と心が共に豊かな 理想の社会の実現に向けて

私たちは1918年の創業以来、「社会生活の改善と向上」と「世界文化の進展」の実現に向けて事業に取り組んでまいりました。これからも、物も心も豊かな「理想の社会」の実現に向け、社会課題に正面から向き合って、新しい価値を創造していきます。



企業市民活動の主なあゆみ

1960年	〈社会背景〉 文化復興 交通事故増加	・金龍山浅草寺の雷門および大提灯の寄贈(1960年) ・大阪駅前に歩道橋を寄贈(1964年)
1970年	障がい者 雇用	・重度身体障がい者を雇用する福祉工場の設立支援(1973年)
1980年	グローバル化	・国際科学技術財団の設立(1983年) ・松下国際財団の設立(1988年) ・松下幸之助花の万博記念財団の設立(1988年)
1990年	新興国台頭 アジアへの進出	・アジアから日本への留学生に対する奨学金制度の設立(1998年)
2000年	環境問題	・NGOとの協働プロジェクト WWF黄海エコリジョン支援プロジェクト(2007年～2014年)
2010年	NPO/NGO との協働	・Panasonic NPOサポートプロボノ開始(2011年) ・ソーラーランタン10万台プロジェクト実施(2011年～2018年)
2020年	脱炭素化	・みんなの生物多様性保全「Act for EVERY LIFE」開始(2024年)



企業市民活動ホームページTOP

パナソニックグループの企業市民活動の最新情報をぜひご覧下さい。

パナソニック 企業市民活動 | 検索



このリーフレットの記載内容は2025年3月31日現在のものです。



この製品は、再生資源およびその他の管理された供給源からの原材料で作られています。

Panasonic Group

パナソニックグループの企業市民活動



誰もが自分らしく 生き活きとくらす 「サステナブルな共生社会」 の実現に向けて

私たちパナソニックグループは、社会課題と直接向き合い、ものづくりやサービスなどの事業活動とともに、社員一人ひとりが企業市民活動すなわち社会貢献活動に取り組んできました。50年以上つづく、この活動は、時代に合わせてテーマを更新しながら、パナソニックグループの人から人へと、脈々と受け継がれてきたものです。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



誰もが自分らしく生き生きとくらす「サステナブルな共生社会」へ

パナソニックグループは「事業を通じて人々のくらしの向上と社会の発展に貢献する」という経営基本方針のもと、企業市民活動においても社会課題解決と新たな社会価値創造に取り組み、「物と心が共に豊かな理想の社会の実現」を目指しています。企業市民活動では、国連の持続可能な開発目標(SDGs)の1番でもあり、創業当初から取り組んでいる「貧困の解消」と、世界全体の喫緊の課題である「環境(問題)」、さらに課題解決のベースとなる「人材の育成(学び支援)」を重点テーマに設定し、さまざまな取り組みを行っています。

重点テーマ

貧困の解消

環境

人材育成(学び支援)

貧困の解消

Panasonic NPO/NGO サポートファンド for SDGs

SDGsの大きな目標である「貧困の解消」に向けて取り組むNPO/NGOが持続発展的に社会変革に取り組めるよう、組織基盤の強化を応援する助成プログラムです。

「海外助成」「国内助成」の2つのプログラムで、第三者の客観的視点を取り入れながら組織課題を明らかにする組織診断や、具体的な組織課題の解決、組織運営を改善するための組織基盤強化の取り組みに助成します。

Panasonic NPO/NGO サポート プロボノ

2011年4月からプロボノを開始し、NPO/NGOの事業展開力の強化を応援しています。従業員が仕事で培ったスキルや経験を活かし、中期計画策定や営業資料作成、マーケティング基礎調査、ウェブサイトの再構築などの支援をしています。



無電化地域の未来を照らす LIGHT UP THE FUTURE

再生可能エネルギーによる“あかり”を、NPO/NGOや国際機関などのパートナーと協働し無電化地域に届ける取り組みです。“あかり”を活用した「教育・健康・収入向上の機会創出」の支援に加え、再生可能エネルギーによる環境負荷の低減にもつながっています。



みんなで“AKARI”アクション

「LIGHT UP THE FUTURE」の活動の1つで、古本やCD・DVDなどをリサイクルし、その寄付をソーラーランタンに換えて無電化地域にお届けする活動です。どなたでも参加いただくことができ、皆様からの寄付は無電化地域の子どもの教育、医療現場、女性の就労などに活かされます。



環境

Panasonic ECO RELAY for Sustainable Earth(エコリレー)

真のグリーンプロダクツをつくるには、真のグリーンマインドが必要との想いから、1998年に環境活動を始めました。この活動は、世界各地の従業員が自ら企画し実施するエコリレー活動に発展し、地域の方々や子どもたち、従業員の家族を交えた活動を通して、地球市民として持続可能な地球環境と社会づくりへの貢献を目指しています。

また、世界各地の従業員が一体となり、日常生活の身近なところで環境保全アクションを習慣化することを目指した取り組みとして、Panasonic ECO RELAY World Actionを展開しています。



みんなの生物多様性保全 Act for EVERY LIFE

生物多様性保全の重要性に気づき、一人ひとりが日常生活の中で、具体的な環境保全アクションへつなげられるよう社内外に向けた発信や様々な取り組み紹介を行っています。



サステナブル・シーフード(持続可能な水産物)の導入

2018年3月より、日本で初めてMSCおよびASC認証のサステナブル・シーフードを社員食堂へ定期的・継続的に導入し、累計57拠点にまで拡大しています。この取り組みにより、従業員の消費行動を変容し、SDGs目標14「海の豊かさを守ろう」達成への貢献を目指しています。



人材育成(学び支援)

キッド・ウィットネス・ニュース(KWN)

映像制作活動を通じて創造性やコミュニケーション能力、チームワークなどを養う、小学・中学・高校生向けのプログラムです。1989年にアメリカでスタートして以来、累計18万人以上の子どもたちや先生がプロジェクトに取り組んでいます。



私の行き方発見プログラム

中学生を対象とした主体的な進路選択を支援するキャリア教育プログラムで、多種多様な役割を持って働くことを学び、自分らしい“行き方”を考えるプログラムを提供しています。



パナソニックキッズスクール

子どもたちが“夢や未来”の可能性を発見し、自発的な興味・関心に基づいて、自ら学び、生きる力を身につけることを応援するWEBサイトです。ICT教育にも有効なコンテンツとして、学校の授業でのご活用もおすすめています。



パナソニック スカラシップ アジア

21世紀のアジアをリードする若い人材の育成を目指して1998年に創設。2014年からは、地域密着型の次世代育成支援として、9つの国・地域で学生の奨学金援助を行い、修了後も同窓生のつながりなどを支援しています。



従業員向け社会課題講演会 Social Good Meetup(SGM)

社会課題と従業員を繋げるオープンな学びの場として、社会課題解決に取り組まれている多様なゲスト講師を招いて、SDGsの17の目標や時事テーマに関する講演会を行っています。



その他の取り組み

福島『復興』応援アクション

今なお東日本大震災後の風評被害等を受けている福島県産の農畜水産物を食べて応援することで、震災復興やSDGsの目標11「住み続けられるまちづくりを」への貢献を目指した取り組みです。累計24拠点で福島応援メニューを提供しており、今後も提供拠点の拡大やマルシェの開催、従業員への啓発活動などを通じて、福島復興を応援していきます。



● パナソニック教育財団

1973年に視聴覚教育の振興を目的に設立。現在では学校現場でのICT活用支援と、諸団体による“子どもたちのこころを育む活動”顕彰を行っています。

● 国際科学技術財団

科学技術の分野で人類の平和と繁栄に顕著な貢献をした人々を顕彰するために1983年に設立。日本国際賞を贈呈。

● 霊山顕彰会

京都・霊山の歴史的風土の維持保全と、日本伝統の精神文化の振興と伝達を目的に活動。霊山歴史館を運営。

